



金沢星稜大学経済学部
教授

新 広昭 氏

石川県庁で24年間、地球温暖化対策など環境行政に従事。その間、272条にわたる環境総合条例、「ふるさと石川の環境を守り育てる条例」の策定を担当。2016年より現職。研究分野は地域環境経済、環境政策。
博士(社会環境科学)金沢大学、技術士(環境部門)、環境カウンセラー

2017年版CSR報告書の特徴として、2018年の設立60周年に向け、社長のトップメッセージ、『「環境」をコアビジネスに産業への貢献と利益の創出をめざします』という方針が述べられ、また、創業からの沿革をたどったうえで、副社長、企画管理本部長がダイセキのこれからを語るという特集を組んでいる点があげられます。

これらの記事は、これまでの事業活動とCSRの取り組みをふり返り、これからの方向性をステークホルダーに示すメッセージであると読みとれます。

CSR報告書の意義がステークホルダーとの環境コミュニケーションの促進や企業の社会的説明責任の遂行にあると考えた場合、これらの記事は時宜を得たものと評価できます。

トップメッセージからは、廃棄物処理・リサイクルという本業を活用して社会・環境の持続可能性に貢献し、利益の創出をめざすという攻めのCSR、あるいはCSV(共有価値の創造)を意識していこうという姿勢が見てとれます。

ダイセキはいわゆる環境産業に分類され、企業の成長と環境保全のレベル向上が同じベクトル上にあるという意味で、もともとCSV経営戦略をとっているともいえますが、そのことを明確に打ち出していくことは意義のあることだと思います。

しかしながら、現状の報告書では、事業活動(ビジネス)とCSRとの関係性や共有価値の創造に向けた事業活動がどのように企業と社会の持続可能性に結びついていくのかといった情報は不十分といえます。

そこで提案ですが、①事業活動とCSRとの関係性

を見える化していくための方法として、売上高や営業利益の推移のグラフと環境保全上のKPI(例えば、リサイクル量)の推移のグラフをあわせて示してはどうか ②ダイセキが取り組むCSR/CSVの重点課題を、SDGs(持続可能な開発目標)で整理し、示してはどうか ③ダイセキの本業を活かしたCSRとして重要と考えられる災害時対応について、ナホトカ号重油流出事故時や東日本大震災時の流出重油等の処理などにおいて蓄積された技術やノウハウをもとに災害時にダイセキにできる活動を示してはどうか。

以上、CSR報告書について、攻めのCSR≒CSVという切り口からも積極的に情報発信してはどうかという観点で意見を述べましたが、その他の部分では、環境に関するデータをサプライチェーンに沿って示すなど工夫されていてわかりやすく、また、各事業所の特徴ある取り組みがよく記載されていると思います。

私は現在、環境経済学、イノベーション論、環境社会学といった諸分野の知見を応用して公共政策、特に環境政策(温暖化対策、生物文化多様性など)の政策デザインを通じて地方創生に結びつけるといった研究・教育活動をしています。地方創生には、産官学金労言がタッグを組んでいかなければなりません。前の職場では、ローカル版環境マネジメントシステムの策定・普及やCSV経営を意識した「いしかわエコデザイン賞」を立ち上げるなど産官の連携を図ってきましたが、今後も産学の立場で企業と連携してCSR/CSV経営の普及にも取り組んでいきたいと考えています。この点で、今後協働した活動ができる機会が持てましたら幸いです。

ダイセキグループの概要

ダイセキグループ

(株)ダイセキ

【名古屋市】

産業廃棄物の収集運搬・
中間処理とリサイクル
石油製品の販売



(株)ダイセキ環境ソリューション

【名古屋市】

土壌汚染調査・浄化処理など



北陸ダイセキ(株)

【石川県金沢市】

潤滑油製造と石油製品販売



(株)ダイセキMCR

【栃木県宇都宮市】

鉛の精錬、使用済バッテリーのリサイクル



システム機工(株)

【東京都港区】

タンク貯蔵施設の洗浄工事とその付帯工事



(株)グリーンアローズ中部

【愛知県東海市】

廃石膏ボードのリサイクル



(株)グリーンアローズ九州

【福岡県糟屋郡】

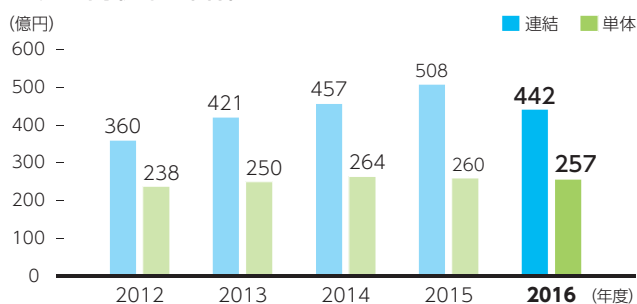
廃石膏ボードのリサイクル



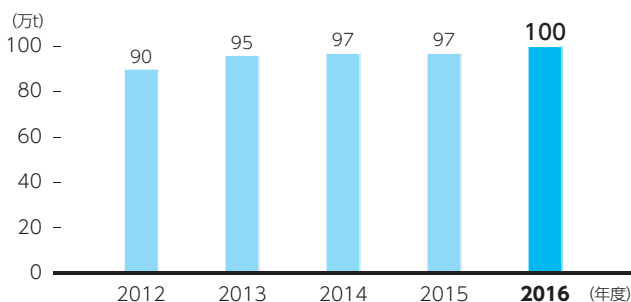
会社概要 2017年2月28日現在

社 名 株式会社ダイセキ
 所 在 地 〒455-8505 名古屋市港区船見町1番地86
 TEL:052-611-6322
 代 表 者 代表取締役社長 柱 秀貴
 設 立 1958年(昭和33年)10月
 資 本 金 63億8,260万円
 事 業 内 容 産業廃棄物収集運搬・中間処理、潤滑油製造ならびに
 石油製品販売
 従 業 員 数 (連結)865名 (個別)595名 (2017年2月28日現在)
 事 業 所 名古屋、北陸、関西、九州、関東、千葉(全6事業所)
 U R L <http://www.daiseki.co.jp>

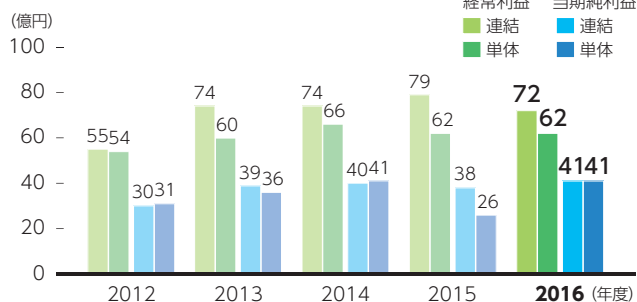
▼ 売上高(連結・単体)



▼ 産業廃棄物等受入量(単体)



▼ 経常利益、当期純利益(連結・単体)*



* 当期純利益(連結)は、「親会社株主に帰属する当期純利益」を表しています。